

校園長名

大谷 千絵

記入者名

大谷 千絵

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己評価 (4点満点)	学校関係者からいただいた 評価・意見等	改善策 左欄(学校関係者からいただいた評価・意見等)を踏まえての改善策には、下線
心豊かにたくましく生きる 神戸の子供を育む	明るく元気な子 自ら考え行動する子 心豊かな子	・身近な環境に主体的に関わり、心も体も弾ませて遊ぶ子供を目指して	・幼児の自発的な遊びである好きな遊びの充実に向けた魅力ある環境づくり	・新型コロナウイルス感染症感染予防に配慮しながら、幼児の興味に応じた環境となるように工夫した。 ・季節に応じて園庭の遊びに使うテーブルや椅子の配置を工夫したり、テントを設置したりして、幼児が快適に遊びに取り組み、遊び込めるように工夫した。 ・園庭や保育室が密にならないように、学年ごとに時間を区切ったり、遊戯室に運動遊びができるよう、巧技台や用具を準備した。また、空き保育室も活用し、園全体を使って遊べるように工夫していった。 ・幼児の興味関心を大切に、必要に応じて教材を準備したり、ゆっくりと遊び込める時間を確保したことで、幼児が自ら遊びを見付け、友達と思いや考えを出し合いながら遊ぶ姿へとつながった。クラスだけの遊びではなく、学年を越えて園全体で遊べるような工夫が必要であった。 ・伊川谷中学校の体育館を借り、密を避けながらも体を動かす遊びができるようにした。幼児が広い場所で伸び伸びと体を動かし、思い切り体を動かして遊ぶことができた。	3.8	・新型コロナウイルスは目に見えないため、室内室外での環境を考えたり、学年を越えての遊びの工夫もなされ職員がいろんな角度から自発的に遊べる内容を取り入れたことがよく分かった。 ・中学校の体育館も借りれることが恵まれていると思う。 ・園庭の物が定期的に変わるため、子供が毎回いろいろな遊び方をしている様子が見られた。鬼ごっこなどで子供たちがルールを確認し合ったりしていると聞いてとても良いと思った。 ・広い体育館で体を動かせることは、今とても良いことだと思う。先生方が感染症予防にも気を付けてくださっているので、安心して子供たちが遊べるのだと思う。 ・職員間の共有はできていると感じた。	・今後も幼児が遊びたくなるような保育環境の工夫を行っていくと同時に、感染症対策等も踏まえて臨機応変に対応できるようにしていきたい。 ・幼児の興味関心に合わせて、園内の環境をどう構成していくのかを職員間で情報共有していくことが大切である。
			・主体的な生活や、遊びの充実に向けた環境構成の工夫	・保育の流れを毎日職朝で確認し合った。保育の内容に応じた必要な援助を共通理解することで、職員全員で幼児を見守ることに繋がった。 ・保育記録を回覧することで、担任以外の教師も、遊びのねらいや援助について考えられるようにした。いろいろな働き方の職員がいる中で、保育や幼児について話したり、共通理解をしていく工夫が今後も必要である。 ・昨年度の経験を生かして、新型コロナウイルス感染症感染予防を踏まえた保育を意識し、幼児自身も手洗いやソーシャルディスタンス、マスク着用などを自ら進んで取り組むことができた。しかし、慣れてきている部分も多く、その都度予防が徹底されているのか、状況に応じて変更していくなどの見直しが必要である。	3.5	・子供たちは先生に見守られながら日々成長しながら自分で考え、育っていくのだと感じる。 ・感染症感染予防は簡単ではなく難しいが、継続していくことが大切であると思う。 ・担任以外の先生と状況を共有していただいていることは、とてもすてきだと思う。子供たちのためにもたくさん工夫してくださっていることが伝わる。	・教師が幼児の姿をどう捉えているのかを保育記録等の回覧で共有し合うだけでなく、それに対してどう援助していくかを考える場をつくっていく。 ・環境構成は常に安全であり、幼児の主体性につながっているのかを見直し、その都度環境構成を工夫していきたい。
			・地域の自然環境を生かした保育の充実	・身近な地域の自然に触れられるよう定期的に散策に出かけ、そこでの経験を保育の中でも生かせるようにしていった。季節ごとに散策に出かけることで、その時期ならではの自然物に触れることができ、幼児も心を動かして生き物に関わるのができた。 ・園内の自然環境にも目を向け、幼児が花や季節の自然物、生き物などに触れられるように工夫していった。また、生き物に触れたり、クラスで飼育したりする体験を大切にすることで、幼児が命あるものに思いを寄せ、大切にする姿につながっていった。 ・地域の方から生き物が生息する場所や自然物が拾えるタイミングの情報を得たり、幼児が栽培できるようにと稲を頂いたり、協力を得ることができたのはとても大きかった。教師も身近な地域の環境に目を向け、保育に取り入れられるようにしていく必要がある。	3.8	・地域の環境や自然が十分に整っていることが保育への充実に繋がっていると思う。また、地域の方々のご協力もあり、内容がたくさん増えていると思う。 ・自然散策は家庭だとなかなか時間をとってできないため、子供の興味関心を持つうえでとても良いと感じている。 ・伊川や惣社で遊んだ思い出や経験は、小学生になっても大切なものになっているので、これからもどんどん行って頂きたい。	・惣社や伊川へは定期的に散策に行き、幼児が身近な地域の自然環境として親しみがもてるように、計画をしていく。 ・また地域の方々とのつながりを今後も大切にしていくと同時に、教師自身も地域に出向き、地域の環境を保育に取り入れていけるよう努めていきたい。
			・異年齢との交流の工夫	・2学期より異年齢のペアをつくり、野菜の栽培や収穫を行った。初めはどのように関わっていいのか戸惑う姿が見られたが、一緒に水やりをしたり、クラスの活動を見合ったりする時間を作ることで、好きな遊びの時間にもクラスを越え関わる姿が見られるようになった。 ・感染症予防の観点から密を避けたり、触れ合ったりすることはできないが、工夫をしながら関わりを継続していくことが必要である。	3.8	・クラスだけでなく異年齢との交流を大切にされていること、一緒に協力したりしながら心を育てていることを嬉しく思う。 ・異年齢交流はとても成長につながると思うので、これからも続けてもらいたい。	・新型コロナウイルス感染症感染予防を行いながらも、異年齢交流での学びや発見が継続できるよう、できることを計画し、実践していきたい。またそのことを保護者にも発信していきたい。
白		・自分の思いを伸び伸びと表現し、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう(4歳児)		・幼児一人一人の思いや考えを大切にしながら、教師が丁寧に関わり、援助することを心掛けた。また、幼児の課題に応じて保護者も含めて援助の在り方や今後に必要な支援策等を考えるようにしていった。 教師との安定した信頼関係や、安心安全な環境があることで、幼児は自分の思いを伸び伸びと表現しながら遊ぶ姿へとつながっていった。	3.6	・幼児一人一人のことを考えた上で、丁寧に関わっている様子が分かる。保護者にも先生方の気持ちが伝わり、幼児のことを理解した上で支援がなされていると思う。だからこそ、子供たちも自分を出しながら、友達と一緒に表現することを楽しんでいると思う。 ・先生方の取り組みで保護者も安心して預けることができ相談もできると思う。	・幼児の姿から思いや考えをしつかりと受け止め、個々に応じた援助を行ってきたい。

	自己発揮する力の育成	・互いの良さに気付き、友達と力を合わせながら遊びを進めていく楽しさを味わう(5歳児)	・幼児同士が友達のことを認め、一緒に遊びを考えたり工夫したりできるように援助していった。問題が起ると、教師の力を借りようとするが多く、必要に応じて見守ったり、幼児自身で考えられるように援助していった。自分の思いや考えを伝え合ったり、相手の意見を受け入れたりする経験を重ねることで、友達と試行錯誤しながら遊びを進めていく姿が見られるようになった。 ・和太鼓に継続的に取り組んだことで、体幹を鍛えることにつながったり、友達と心を合わせる心地よさを経験することができたりした。	3.6	・友達を受け入れ、お互いに認め合うことは育ちの中で一番大切だと思う。子供への重点目標を心掛けて保育がなされていると思った。和太鼓を経験できる機会はあまりないと思うが、子供たちにその環境があることは幸せだと思う。 ・先生や子供から話を聞くことで、友達と話し合うことにつながると感じた。 ・和太鼓を通じて子供たちがたくましく成長していると思	・幼児の主体性を大切にしたい保育が実践できるよう、実態に応じた重点目標を設定し、保育を進めていく。
		・一人一人を大切にしたい個に応じた保育	・配慮を要する幼児に関しては、個別の指導計画を用いたり、その日の様子や支援を共通理解する場を大切にし、職員全員で支援できるようにしていった。 ・通級指導教室の教員とも連携し、専門的な立場からのアドバイスを取り入れながら個別の援助の在り方を考えていった。保護者のサポートや家庭との連携が重要であり、幼児にとって必要な援助を分かり合えるようにしていくことが大きな課題である。	3.8	・配慮を要するお子さんへの関わりや個への理解はなかなか難しく、個に寄り添って支援が必要だと思う。関わる人たちとの連携や共通理解も求められると思う。	・様々な経験を通して、幼児が達成感を味わったり、さらに頑張ってみようという向上心を得られるように支えていきたい。
安全・地域・安心と心共に子どもを育む	いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)		・友達同士のトラブルや、幼児の発言などに対してその都度丁寧に関わり、いじめの芽となる行動や言動について考えられるようにしていった。また、保育の中で友達を認める姿をピックアップしたり、友達と一緒にだからこそ感じられる感動体験を大切にしたりすることで、相手を思う気持ちを育てていった。 ・日頃から幼児の様子を丁寧に見て、変化がある場合には家庭での様子を聞いたり園での様子を伝えたりして、解決につながるようにした。 ・今後も一人一人に応じた丁寧に関わりと援助を継続していきたい。	4	・いじめは目に見えないところで起こる。幼児の発言で気になる場面もあり、頭を悩ませることもあると思われる。やさしい気持ちと一緒に声をかけたり、考えたりも必要だと思う。見逃さないことが大切であると思う。 ・思いやりの心を育てるのはとても難しいと思う。しかし先生方の努力で、子供たちはとても素敵に育っていると思う。	・日々の保育で、小さなトラブルや幼児の変化を見逃さずに丁寧に関わりを継続する。 また、園全体で保護者へのサポートも行う。 ・地域とのつながりを大切にし、思いやりの心を育んでいけるようにしていく。
		超過勤務時間の削減・効果的な有給休暇の取得	・いろいろな勤務形態の職員がいる中で、限られた時間で職員会議や作業ができるように計画した。また、早めに取り組み、慌てて準備することがないようにしていったことで、行事前等にも超過勤務を少なくすることができた。 ・係の教師の負担とならないように、的確な役割分担を行うことが必要である。また、職員間で日頃から情報共有していくことが大切である。 ・それぞれの職員の園務分掌は、係の職員だけが知っておくのではなくマニュアルを作成し、情報共有をしておくことで、急な欠勤の場合にも対応できるようにした。一部の職員に負担を強いられないようにすることで、長期休業中には有給休暇を取得しやすかった。	3.8	・職員の勤務形態を知っておく、職員会議の時間の削減や、できるだけ超過勤務にならないよう工夫することが大切。職員間でしっかりと計画し、有給休暇取得がしやすくなったことはよい結果だと思う。 ・大変だと思うが、先生方の負担が少しでも少なくなることを願う。	・先を見据えた早めの計画、適正な役割分担を継続していく。
		新型コロナウイルス感染症関連	・感染状況に応じて行事を見直したり、園内での感染症対策を徹底したことで、感染の広がりを抑制することができた。また、保護者にも無理な登園の自粛を依頼したり、早退の協力を得たことも大きい。今後も、園生活での予防に加えて、保護者にも呼びかけを継続するなどして対応していきたい。	3.9	・新型コロナウイルス感染症については、しっかりと考えられてすごいと思った。早く気にしなくてもよい流れになってほしいと願う。 ・マスクやソーシャルディスタンスなど、定期的に先生	・今後も地域間の学校園で情報共有しながら迅速に対応できるようにしていく。 ・園内の感染症対策の徹底、保護者への協力や注意喚起を継続していく。
		「すぐ-る」の活用、ホームページにおける情報発信	・今年度よりすぐ-るを用いたことで、欠席の確認や急な情報発信に役立った。また、行事のアンケートもすぐ-るを活用することで、保護者が行事後すぐに入力出来たり、提出率の増加にもつながった。 ・保護者にはすぐ-るの正しい活用方法を周知し、身近な情報ツールとして適正に活用していただけるようにしていくことが課題である。 ・HPは更新を当番制にしたことで、継続して更新することができた。長期休業中の園の様子や未就園児にむけての情報発信も行い、さらに充実させたい。	3.8	・今年度よりすぐ-るの活用、ホームページの情報発信で幼稚園、保護者との共通理解が行き届いたようで良かったと思う。使いこなし、理解ができスムーズに今後もできると良いと思う。 ・すぐ-る等電子機器の活用は保護者によって活用度がかかなり違ってくるので対応が大変かと思うが、無理なく周知していったほしい。 ・小中学校もすぐ-るを利用しているので、幼稚園の時から使うのは、保護者にとってありがたいと思う。	・ホームページは継続して更新し、保護者、地域にむけての情報発信を行っていく。 ・すぐ-るは今後も活用を場を探りながら、保護者、幼稚園間の情報共有をスムーズに行えるように工夫する。
		登園時の見守り活動(PTA・青少協など)	・新型コロナウイルス感染症感染予防のため、昨年度に引き続きPTA主催の行事はほとんど中止したが、縮小しながらもできる範囲内で無理なく秋祭りをを行い、幼児が楽しめる行事となった。 ・来年度も、状況に応じて行事等を見直し、臨機応変に対応していくことが必要である。	3.8	・感染症は先が見えないため、今後の課題だと思う。早く安心して行事が計画できると嬉しいと思う。 ・地域の高齢者との交流ができなかったのは残念であるが、手作りのプレゼントを頂くという形での交流ができたことは良かった。地域の方もとても喜んでいた。 ・PTAの行事が少なくなってしまうのは残念だが、2学期の行事はとても素敵だったと思う。 ・車での送迎時に事故がないように安全指導をしてほしい。	・今後の状況を踏まえながら、PTA行事の持ち方を考えていく。 ・送迎時の交通ルールに関しては、再度保護者に周知安全に登降園できるようにしていく。